科目名	特別講義（産業環境保健学）	分野・必選別・単位数	教養科目(*1)	自由	1単位

担当教員	◎客員教授　Rose Goldman						
課程	「その他履修上の注意事項」欄参照	配当年次	「その他履修上の注意事項」欄参照	配当学期	「その他履修上の注意事項」欄参照	授業方法	「その他履修上の注意事項」欄参照

授業の概要

エネルギー消費量の増大により地球温暖化が進むなど、ヒトの健康への環境の影響が大きくなっている。環境保健の基本的コースとして、毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題について、評価し政策決定できることを目指す。

事前に教科書の関連する章を読む予習を前提に，ケースを用いてグループ討論をする。また、参加者自身の国および居住地域の環境相互関係や、他の要因（年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙など）の修飾影響について理解を促す。

授業の到達目標

【一般目標（GIO）】
1. 環境保健の基本的な考え方および方法を学び、その考え方や方法を実際の環境問題に適用できる。

【行動目標（SBO）】
1. 環境有害要因のヒトの健康への影響を理解し、説明できる。
2. 環境保健の基礎として毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、説明できる。
3. 大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題に対して対策案を検討できる。
4. 環境有害要因によるヒトへの健康有害影響に対する、年齢、遺伝的要因、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙などの修飾要因の影響を評価できる。

授業計画

回数	担当者	講義タイトル
1	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/24（金）9:00～10:30】 化学物質へのばく露評価（メチル水銀ばく露の疫学調査を一例として）
2	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/24（金）10:45～12:15】 環境中の有害因子の脳への影響（化学物質を例として）
3	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/24（金）13:05～14:35】 環境中の化学物質による小児への発達影響
4	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/25（土）9:00～10:30】 リスク評価と対策（PFASの毒性調査を例として）
5	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/25（土）10:45～12:15】 環境保護に向けた世界的動向
6	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/25（土）13:05～14:35】 科学的根拠の重要性（科学分野における適切な判断行うために必要なこと）
7	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/26（日）9:00～10:30】 化学物質の情報を的確に伝える重要性（学術研究結果の社会への周知）
8	Rose Goldman　教授(客)	【2020/1/26（日）10:45～12:15】 化学物質との共存のために（経済効果と倫理的側面）

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

【事前学修】
・事前にテキスト「Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016」や，専用HP上に公開される講義用資料を授業前に読んでおくこと。
・当日の講義内容に関連するキーワードの概念を理解して講義に臨むこと。
【事後学修】講義中の疑問点を、講義資料等を用いて、次回講義までに解決しておくこと。
【必要時間】当該期間に15時間以上の予復習が必要。

教科書

・Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; sixth edition. Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas. Oxford University Press, 2011.

参考書

・関連する読むべき資料を専用ホームページに掲載する。

評価方法

最終試験の点数で評価し、60％以上を合格とするが、グループ討議・発表等への積極的参加で10％程度加算する。

その他履修上の注意事項

(*1)H29年度以前入学生までは「自由科目」
本科目は公衆衛生学研究科の「ハーバード特別講義（産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ）」で、医療技術学研究科においても専攻・課程・学年を問わず受講可能です。4日間の集中講義で行われます。

・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
・積極的なグループ討論への参加を求める。
・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
（※）年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
（※）担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
（※）また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。